

## 津市立橋北中学校の概要について

津市は平成18年の市町村合併によって、総面積711.19平方キロメートルの、琵琶湖にほぼ匹敵する大きさの市として生まれ変わりました。平成27年度統計での人口は約28万人となっています。本市は、伊勢平野のほぼ中央に位置し、西に布引山地の経ヶ峰(819m)、長谷山(321m)をのぞみ、東に伊勢湾が開け、気候に恵まれた三重県の県庁所在地です。

本校の校区は旧津市市街地の北部地域を占め、県庁をはじめ諸官庁、三重県総合文化センター・美術館・博物館・総合教育センター・教育文化会館・県立高等学校(津西・津東・津商業)・三重大学・偕楽公園等の教育文化施設が集中し、また津駅を中心として商店街があり、大型店舗・銀行などもあって、政治・経済や教育・文化面において恵まれた環境となっています。

校区は津駅を境として、東の商店街地域と西の住宅地域に分かれています。住宅地域は、丘陵地帯であったところを戦後開発造成したもので、特に西が丘地区は大規模な住宅団地として生まれ変わりました。現在は津駅から江戸橋駅付近の開発が進んでいます。

校区には、南立誠・北立誠・西が丘の3校の小学校があります。

保護者や地域の方々の、教育に対する関心は高く、学校にも協力的です。地域の方々は保護者であるか否とにかかわらず、地区の中学校としての意識を持ち、自治会・橋北地区青少年育成指導委員会・PTA生活指導部等の全面的なバックアップを得て生徒の健全育成にも力を入れています。校外での生徒の行動について連絡していただく方々も多く、これによって学校も迅速で適切な対応をすることができます。

生徒は、学習に対する意欲・関心が高く、全般的に温和で落ち着いています。本校では、勤労や奉仕面での実践力や、積極的に生活を改善向上させようという、たくましささをさらに身に付けていくため、生徒会活動やJRC(青少年赤十字)活動などに力を入れ、自主性の伸長を図っています。